

企業価値の創造

JSRグループの戦略領域は、エラストマー事業、デジタルソリューション事業、そしてライフサイエンス事業の三領域です。各領域において、中長期的な観点に基づいた事業活動を展開しています。



熱可塑性
エラストマー

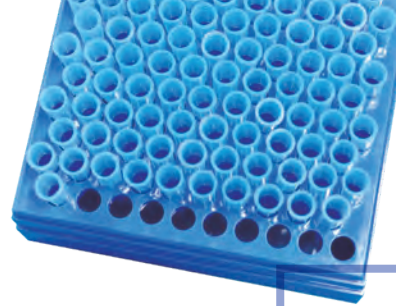


合成ゴム

エマルジョン



合成樹脂

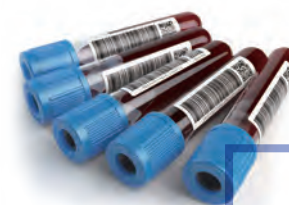
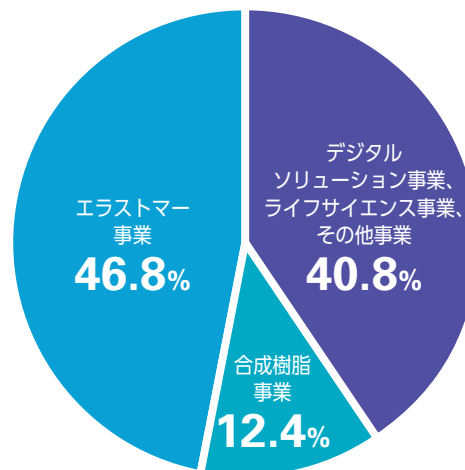


バイオプロセス
材料

ディスプレイ
材料



事業別
売上収益比率

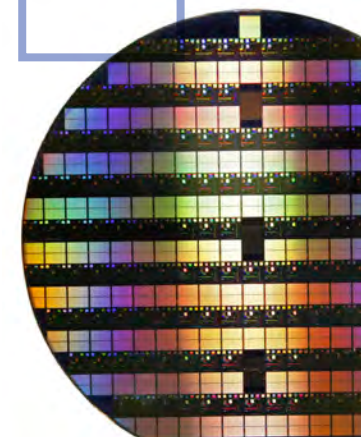


診断・研究試薬



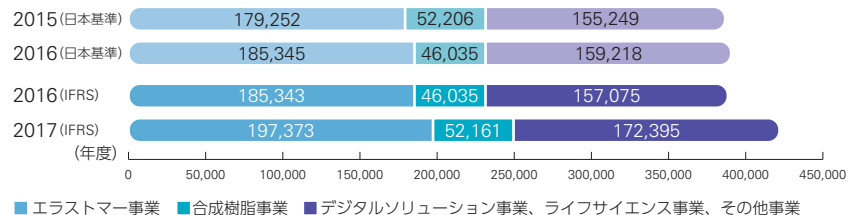
光学材料

半導体材料



事業・製品一覧

部門別売上収益の推移(百万円)



※2018年度より開示セグメントを変更しました。変更内容についてはp.3をご参照ください。

※2017年度から、会社計算規則第120条第1項の規則により国際会計基準(IFRS)に準拠して連結計算書類を作成しております。また、ご参考までに2016年度についてもIFRSに準拠した諸数値を記載しております。

エラストマー事業



汎用合成ゴム

- SSBR(溶液重合SBR)、ESBR(乳化重合SBR)、BR(ポリブタジエンゴム)、IR(ポリイソブレンゴム)、他

特殊合成ゴム

- NBR(ニトリルゴム)、IIR(ブチルゴム)、EPM/EPDM(エチレン・プロピレンゴム)、他

熱可塑性エラストマー(TPE)

- RB(ブタジエン系熱可塑性エラストマー)、DYNARON®(ダイナロン)(水添ポリマー)、TR(スチレン・ブタジエン系熱可塑性エラストマー)、SIS(スチレン・イソブレン系熱可塑性エラストマー)、EXCELINK®(エクセリンク)(オレフィン系熱可塑性エラストマー)、他

エマルジョン、他

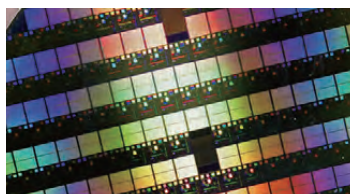
- 紙塗工用ラテックス、一般産業用ラテックス、アクリルエマルジョン、電池用バインダー、SIFCLEAR®(シフクリア)(水系高耐久防汚性エマルジョン)、他

合成樹脂事業



- ABS樹脂、AES樹脂、HUSHLLOY®(ハッシュロイ)(きしみ音対策材)、他

デジタルソリューション事業



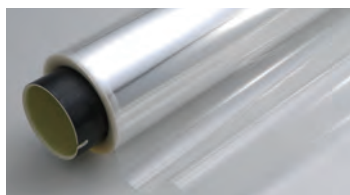
半導体材料

リソグラフィ材料

- フォトリソ、多層材料、他

先端電子材料

- CMPスラリー、CMPパッド、厚膜レジスト、感光性絶縁膜材料、他



エッジコンピューティング関連

- ARTON®(アートン)(耐熱透明樹脂)、他
- 高機能紫外線硬化樹脂、他



ディスプレイ材料

LCD材料

- 配向膜、保護膜、着色レジスト、感光性スプレー、絶縁膜、中空粒子UVインク、他

OLED材料

- OLED向け絶縁膜、平坦化膜、他

ライフサイエンス事業



診断・研究試薬

- 診断用試薬、研究用試薬、磁性粒子、標準粒子

バイオプロセス材料

- Amsphere®(アムスフェア) A3(プロテインAアフィニティ担体)

創薬支援サービス

- 開発・製造受託

その他事業



- リチウムイオンキャパシタ、次世代研究、他

エラストマー事業

事業概況

売上収益

1,974 億円
 ↑ +6.5%

営業利益

149 億円
 ↑ +69.0%

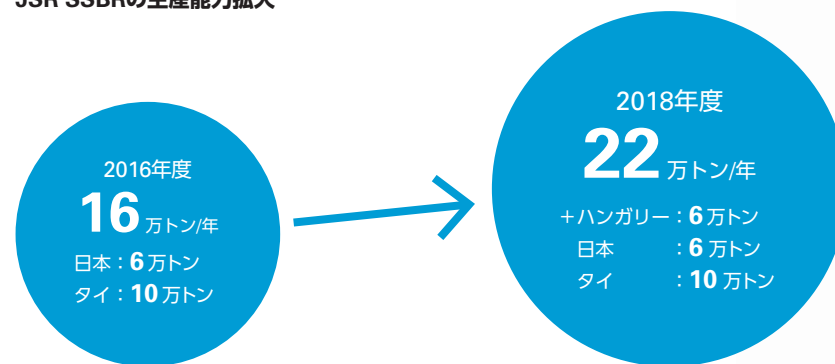
- 自動車タイヤの生産は、中国をはじめとしたアジア・欧州では前年を上回りましたが、日本は前年並みとなりました。
- エラストマー事業全体の販売数量は、輸出が好調であった前期に対しやや減少しました。
- 売上収益は、前期第4四半期に上昇したブタジエン価格を反映した販売価格改定を行ったことにより、前期を上回りました。
- 営業利益についても、販売価格改定により採算が改善したこと、また、第2期設備が稼働したタイの合弁会社JSR BST Elastomer Co.,Ltd. (JBE) での低燃費タイヤ用SSBRの販売数量が増加したことにより、前期を大幅に上回りました。

SSBR 3極供給体制と、タイヤソリューションの提供

環境意識の高まりから低燃費タイヤの需要が拡大するのに伴い、SSBRの市場成長率は6~7%と予想されています。現在、タイと日本に合計16万トンのSSBR生産能力を持っていますが、2018年度に立ち上がる予定のハンガリーの新工場を加えて生産能力を22万トンに増やします。SSBRをグローバルに拡販し、市場成長率を上回る年10%超の販売量増を目指します。

また、需要の拡大が見込まれる欧州での販売強化のためにJSR Elastomer Europe GmbHをドイツに設立し、中国の天津には顧客に密着した技術サポートを行うために天津技術センターを設立しました。電気自動車などの普及によりハイパフォーマンスタイヤへの技術ニーズも高まっています。例えば、電気自動車用のタイヤに必要とされる高い耐摩耗性に対して、材料提供だけでなく総合ノウハウや加工技術と併せたタイヤソリューションを提供していきます。

JSR SSBRの生産能力拡大



合成樹脂事業

事業概況

売上収益

522 億円
 ↑ +13.3%

営業利益

56 億円
 ↑ +44.8%

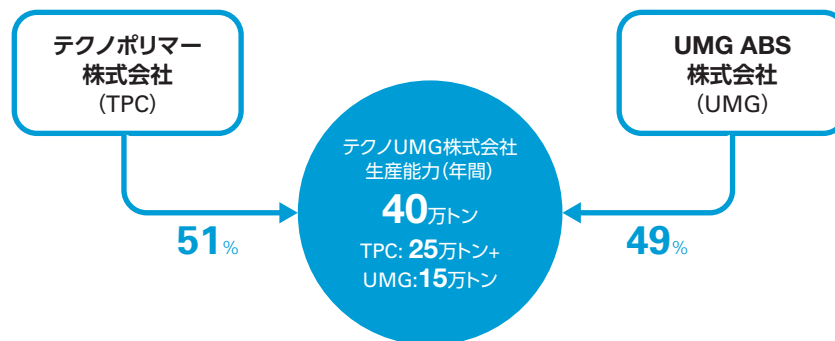
- 主要な需要業界である自動車などで、主に海外顧客需要が増加したことを背景に、販売数量は前期を上回りました。
- 売上収益は、販売数量増加と原料価格上昇を反映した販売価格の改定により、前期を上回りました。
- 営業利益も販売価格の改定による採算改善、および、販売数量の増加により、前期を大幅に上回りました。

合成樹脂事業での事業合併

JSRの完全子会社であるテクノポリマー株式会社と、宇部興産株式会社、三菱ケミカル株式会社がそれぞれ50%ずつ出資するUMG ABS株式会社とが事業統合したテクノUMG株式会社が2018年4月1日に発足しました。

ABS樹脂を中心としたスチレン系樹脂の国内トップメーカーである2社が事業統合することにより、合成樹脂事業の収益・生産能力・販売拠点などの規模が拡大しました。旧テクノポリマーは自動車用内装材用途に強みがあり、旧UMG ABSは自動車外装用材用途に強みがあります。これまで両者が蓄積してきた製造力、開発力、販売力を活かし、製品の製造効率・コスト競争力をより高めて、国内に安定供給するとともに、差別化製品を増やして海外のハイエンド市場での販売拡大を進めています。

新会社の全体像



デジタルソリューション事業

事業概況

売上収益

1,724 億円
 ↑ +9.8%

営業利益

231 億円
 ↓ -0.7%

- 売上収益は前期を上回りましたが、営業利益は前期並みとなりました。

半導体材料

事業概況

売上収益

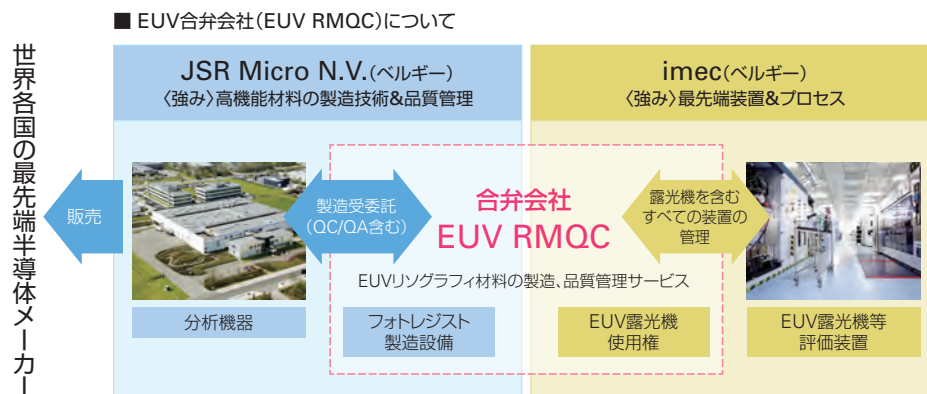
754 億円
 ↑ +21.3%

- 半導体の需要が大きく伸びたことに加え、主要顧客において最先端フォトレジストを中心に販売数量が増加し、また、CMP材料・洗浄剤・実装材料の周辺材料の販売数量も伸びたことにより、売上収益は前期を大幅に上回りました。

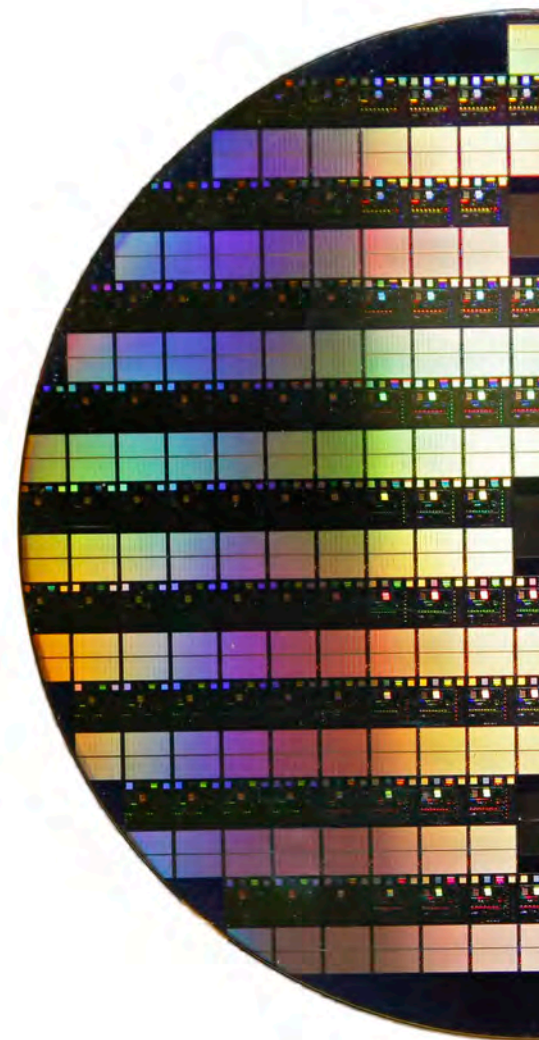
EUVでの業界トップランナーを目指して

10nm世代を含む先端リソグラフィ材料分野においてグローバルでの高シェアを維持し、次世代となる7nm世代以降のEUVリソグラフィ材料についてもいち早く量産化を進め、業界のトップランナーを目指します。また、CMP材料・洗浄剤・実装材料などの周辺材料についても引き続き販売拡大を図ります。

ナノエレクトロニクス技術研究の先端的な研究機関であるimecと2015年末にベルギーに設立した製造合併会社EUV Resist Manufacturing & Qualification Center N.V. (EUV RMQC)のEUVフォトレジスト製造設備が2017年3月に完成し、本格的な製造・品質管理サービスの提供を開始いたしました。EUVリソグラフィの早期実用化に向けて、主要顧客での評価を受け、EUVフォトレジストの量産化を進めていきます。



世界各國の最先端半導体メーカーでのEUVリソグラフィの実用化に向けて、レジスト製造・品質管理のインフラを構築。



デジタルソリューション事業

ディスプレイ材料

事業概況

売上収益

541 億円

↓-4.7%

- ・競争激化による価格低下や全体の販売量の減少はありましたが、パネル生産が大きく増加している中国において販売数量を伸ばしました。

ディスプレイ材料の中国市場展開

液晶パネル生産が盛んで高成長が続く中国へ進出し、事業主体も本社(日本)から現地へ移管しました。北京、合肥、重慶、福州、深圳に営業拠点を設置し、販売や技術サービス体制を強化しています。特に配向膜と絶縁膜の拡販に集中し、シェアアップを達成しました。JSR Micro (Changshu) Co., Ltd.に建設した新工場が2017年度に稼働を開始しました。引き続き事業再編を推進しつつ、中国市場でのさらなる販売拡大を目指します。



ライフサイエンス事業・その他事業

事業概況

売上収益

429 億円
 ⬆️ +12.5%

- グループ会社のKBI Biopharma, Inc. (KBI) の販売数量拡大に加え、診断試薬材料の売上収益を伸ばしたことにより、売上収益は前期を上回りました。
- 一方、営業利益は、ライフサイエンス事業の今後の事業拡大に向けた先行設備投資の増加などがあり、前期並みとなりました。

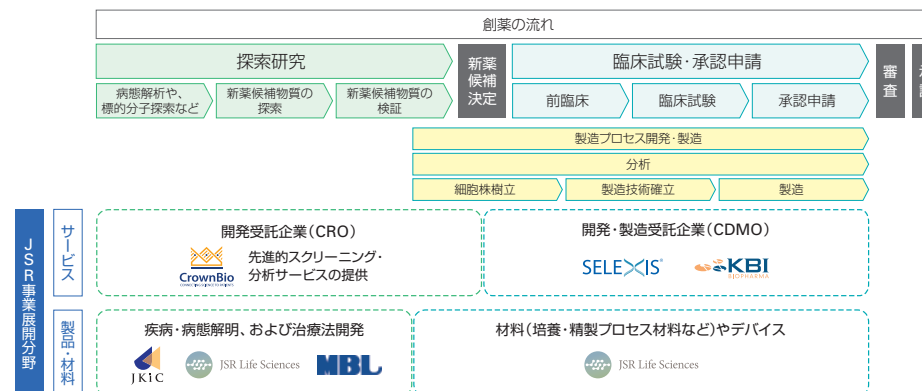
第3の柱としてのライフサイエンス事業

JSRグループの事業の第3の柱として規模を拡大してきたライフサイエンス事業は、抗体医薬品の創薬から製造まで一貫してプロセスを支援できる体制を構築いたしました。既にグループの一員となっているKBI Biopharma, Inc. (KBI)と(株)医学生物学研究所 (MBL)に加え、抗体の効率的な培養に用いる細胞株を短期間で構築できる技術を有するスイスのSelexis SAと臨床試験前段階において創薬支援サービスを提供している米国のCrown Bioscience Internationalを買収しました。これにより、抗体医薬品の創薬から製造まで一貫してプロセスを支援できる体制を構築しました。ライフサイエンス系グループ企業が一体となってバイオ医薬品の創薬支援事業を拡大展開し、抗体医薬品の創薬プロセスにおける成功確率の向上や開発期間短縮につながるサービスを提供していきます。

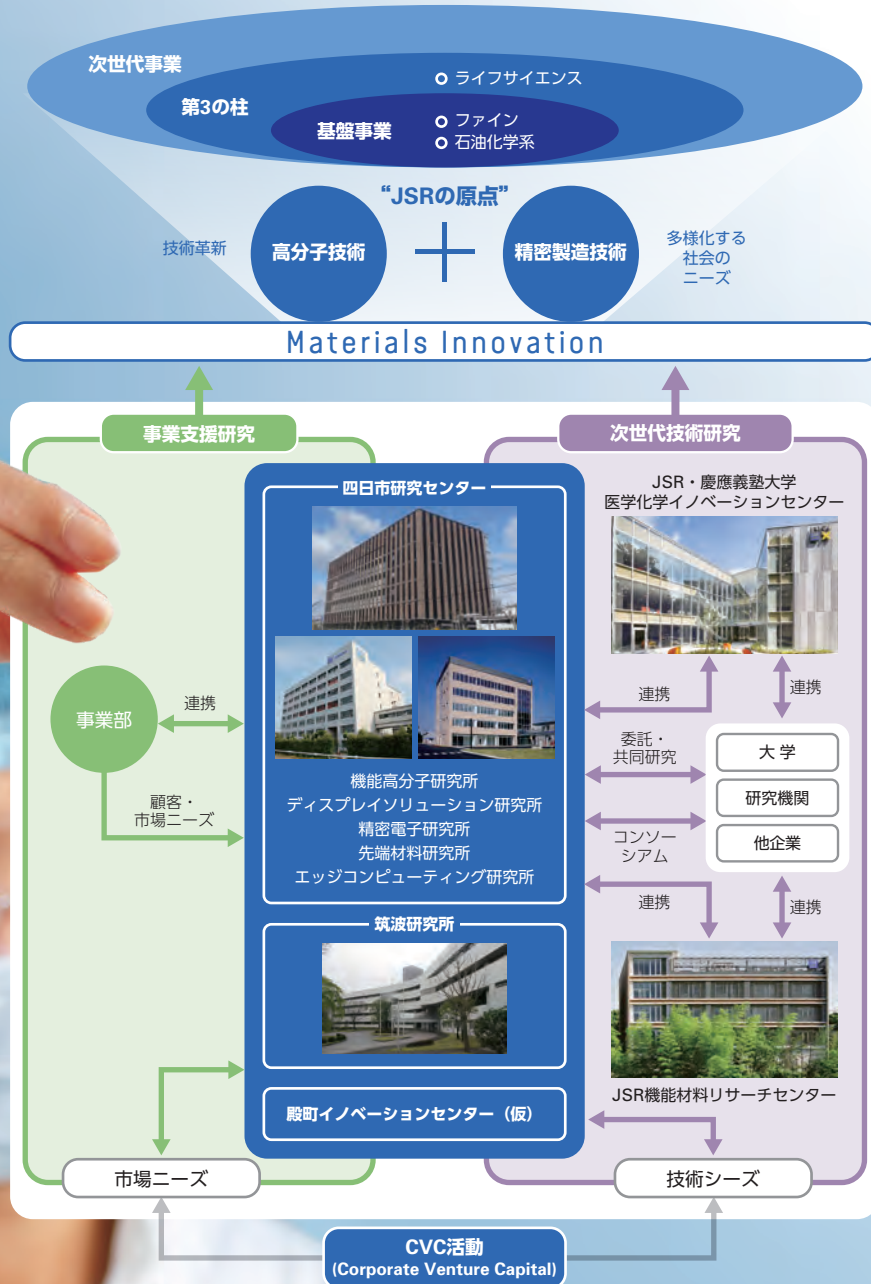
KBIでは、商業用製造の需要に対応するための設備増強が2017年末に完了し、順次稼働を開始しています。欧州での分析サービスもJSR Micro NV敷地内に拠点を置いて2018年前半から開始しました。また、精製用担体Amsphere® (アムスフェア) A3は採用が拡大し、今後も需要の伸びが期待できるため、NVIに製造設備を新設して2018年中頃より商業生産を開始しました。

さらには、慶應義塾大学および大学病院との共同研究施設として立ち上がったJSR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター (JKIC)において、産学共同で新たな医療分野の展開を支える革新的な材料や製品の開発に取り組み、将来にわたってライフサイエンス事業の拡大を進めていきます。

新たな治療の開発プロセス全体にわたって、製薬企業、バイオテック、アカデミアに対して、革新的なサービス、製品や材料を提供していきます。



研究開発



JSRグループは、コア技術である高分子技術および精密製造技術の深耕とともに、光化学、無機化学、精密加工技術、バイオテクノロジーといった異分野技術との融合を通して技術領域を拡大しながら研究開発活動を進めてまいりました。こうした研究開発活動の積み重ねが世界の化学会社の中でも独自の強みとなり、優位性のある技術・素材をグローバルに展開する原動力になっています。

JSRグループの主な研究開発拠点は、三重県四日市市と茨城県つくば市にあります。デジタル革命を起点とする変動など、急速に変化する社会ニーズに追随するべく、研究開発活動を進めています。

研究部門のミッションは、大きく2つに分かれます。現在展開している事業領域における「事業支援研究」、およびその周辺分野における新規・応用研究、確度の高いシーズ研究等の「次世代技術研究」です。研究推進に当たっては、市場開発からプロセス開発、製造技術開発、さらには製造、販売、物流といったグループ内のバリューチェーンとの連携を重視しています。中でも、研究者自身がニーズを掘り下げるため顧客に直接会うなど、研究開発と事業の一体化を推進しています。また、各国での技術サービスを充実させ、顧客の事業推進をグローバルかつタイムリーに支援できる体制を構築しています。

次世代技術開発やシーズ研究については市場の潜在ニーズを先取りした研究開発が必要になります。特に新たな分野の研究開発は国内外の大学や研究機関との共同研究などのオープンイノベーションを推進しており、2017年10月には慶應義塾大学信濃町キャンパス内にJSR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター（JKiC）を開所しました。医学と化学の融合という全く新しい概念を突き詰めることでイノベーションを生み出し、健康長寿につながる世界に貢献する実用技術の確立を目指しています。